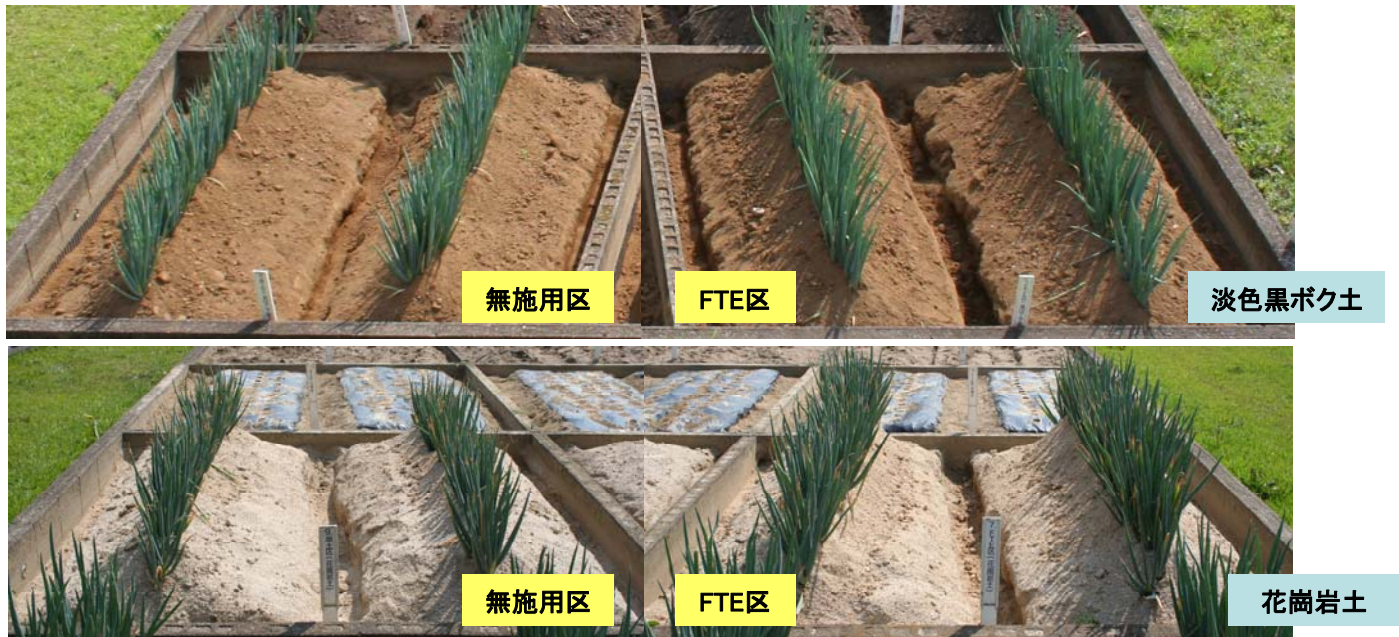


微量要素ニュース

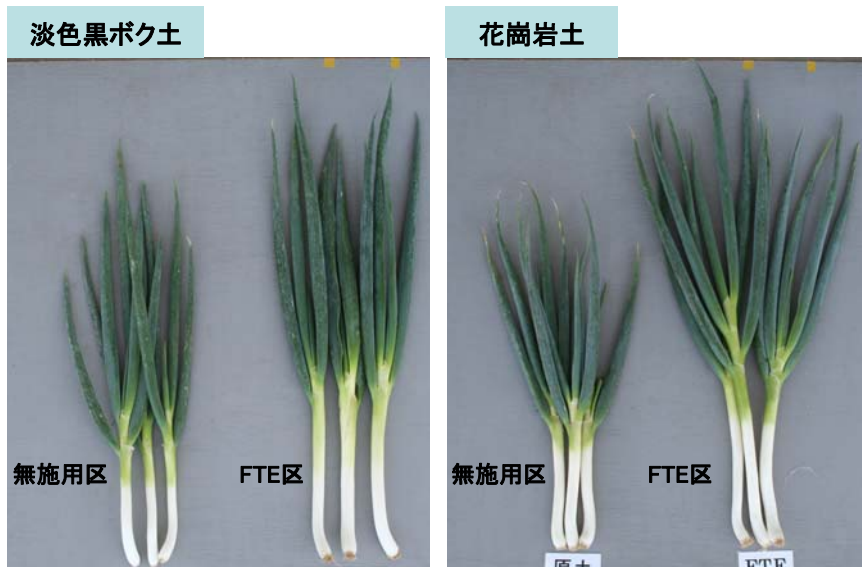
白ネギに対するFTEの施用効果

No.12



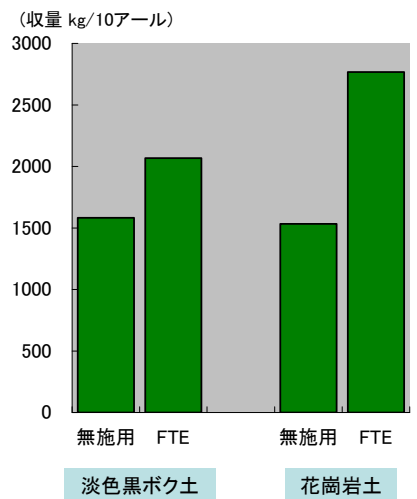
①収穫時の生育状況

FTE区(写真右)は、無施用区(写真左)に比べ葉身部の生育が旺盛。



②収穫時

いずれの土壌でもFTE区の葉鞘部が長く、葉鞘径も太い。



③各土壌における白ネギの収量 (kg/10アール)

《欠乏症の発生時期及び症状》

特に収量差の大きい花崗岩土壌では、4月中旬には葉身部の生育差がはっきり見て取れ、FTE区の生育が日増しに良くなっていきました。

ネギ類はホウ素が欠乏すると葉身部の奇形が見られたり、新葉の生育が阻害され、欠乏が激しいと枯死することもあります。またマンガンが欠乏すると葉脈間が部分的に淡緑化し、更に症状が進むと白い不整形の斑点が生じることもあります。

白ネギに対するFTEの施用効果(2009年)

1. 栽培管理

土 壤:大分県豊後大野市三重町 淡色黒ボク土(0.08ppm*¹)

大分県杵築市 花崗岩土(0.05ppm*²)

*1、*2...白ネギ作付け前の無施用区土壌の熱水可溶性ホウ素含有率です。

いずれの土壌もホウ素含有率が基準値より低いです。

品 種:長悦

栽培方法:植付12月16日、収穫6月16日

畝幅150cm、1畦1条、株間4cm、16,000株/10アール

肥 料: N 30kg/10アール(4回分施)、P₂O₅ 15kg/10アール(基肥)、

K₂O 30kg/10アール(4回分施)

FTE1号は 4kg/10アールを基肥として全面全層に施用

2. 生育・収量

土壌名	試験区	草丈 (cm)	葉鞘長 (cm)	葉鞘径 (mm)	1本重 (g)	収量 (kg/10アール)	収量比 (%)
淡色黒ボク土	FTE区	72.3	27.4	20.9	124	2,067	100
	無施用区	67.4	25.5	19.6	103	1,583	77
花崗岩土	FTE区	74.8	32.0	21.8	173	2,767	100
	無施用区	56.3	24.8	20.2	107	1,533	55

FTEを施用しなかった無施用区と比較すると、FTE区の白ネギは葉鞘部が長く、径も大きく品質が勝っていました。またFTEを施用することで淡色黒ボク土で2割以上、花崗岩では5割以上の増収がみられました。

3. 白ネギのマンガン・ホウ素含有率

(乾物あたり)

	淡色黒ボク土		花崗岩土	
	マンガン	ホウ素	マンガン	ホウ素
FTE区	87ppm	17.8ppm	266ppm	19.1ppm
無施用区	65ppm	10.3ppm	187ppm	3.6ppm

白ネギのマンガン・ホウ素含有率は、ともにFTE区で高くなっていました。特に花崗岩土壌のホウ素含有率は無施用区の5倍以上でした。

4. 微量要素施用の必要性

ネギはホウ素欠乏の発生しにくい作物ですが、ホウ素欠乏土壌においては収量が低く、またFTE施用により品質の向上が見られました。FTEはク溶性であるため生育初期から収穫期まで微量要素を絶えず供給することができます。基肥として10アール当り4~6kgのFTEを施用して下さい。